

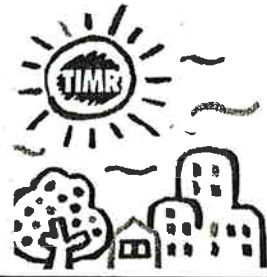
市政研究所だより NO.6

豊中市政研究所 TIMR (The Toyonaka Institute for Municipal Research)

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町3-7-1

TEL:06 (6862) 2290 FAX:06 (6862) 2292

ホームページ: <http://village.infoweb.ne.jp/~timr> E-mail: fvbk5863@mb.infoweb.ne.jp



平成11年度事業計画が理事会で承認

平成11(1999)年度第1回理事会は、4月8日研究所内で開かれ、本年度の事業計画案・予算が原案どおり承認されました。開設3年目を迎え厳しい予算ですが、工夫を重ね事業の充実に努めます。本年度の事業計画は、以下のとおりです。

□調査研究事業は、豊中市の抱える都市問題を中心に、中・長期的な視点から基礎的・総合的な調査研究を行います。本年度は三つのテーマを設定し研究します。

□データバンク事業は、研究所が収集した各種文献、行政資料を整理するとともに、「データバンク通信」として毎月発行し、関係機関に送付します。

□広報出版事業は、機関誌『TOYONAKA ビジョン22』の発行、秋には講演会の開催、ホームページの運用・充実、年4回発行の「市政研究所だより」で研究所の活動内容、成果を発信します。

□人材育成事業では、各種の研究会、講演会、シンポジウムへ参加します。

予算は54,216千円で、前年度比5.1%(2,631千円)増となっていますが、伸びは人件費と予備費の新設によるもののみで、事業費、事務費は28%の大幅減となっています。



主な事業計画

1. 調査研究事業

昨年度の研究テーマは「公会計改革—豊中市への導入試論」、「地域コミュニティ組織に関する基礎調査」、「住宅更新と居住者変動に関する調査研究(1) —豊中都心ゾーン地域を対象に—」で、成果物が間もなく印刷完了します。本年度は新人を迎えて3人の研究員が、独自テーマ設定に頭を痛めています。豊中市の抱える都市問題は多種多様ですが、何を選択するか、6月中旬がリミットとなっています。

2. データバンク

調査研究を進めるために必要な文献、行政資料等を収集し整理します。これらの資料を関係者に利用していただくため、本年度から雑誌資料目録を毎月末作成し「データバンク通信」として関係機関に配布します。年度末には、図書資料目録を作成し配布する計画です。

3. 広報出版事業

(1) 機関誌『TOYONAKA ビジョン22』第3号を発行。第1号は「都市自治体運営と政策形成」、第2号は「次代を見据えた都市計画づくり」を発刊しました。若干残部もありますのでご希望の方は研究所まで。第3号は企画編集会議を開き、特集テーマの設定と執筆者のリストアップし、本格的に取り組めます。来年1月発刊予定。

(2) 講演会の開催—本年度は家族問題をテーマに、マッセ大阪等との共催で北摂ブロックの職員や市民を対象に実施する予定です。時期は本年秋頃の予定をしています。

(3) ホームページの運用・充実—本年2月から開設しました。研究所発の情報を満載しており、新しい情報を次々と張り付けてあります。是非一度ご覧下さい。豊中市や関係機関のホームページとリンクしています。

(4) 研究所だよりの発行—研究所の事業紹介、お知らせ、研究活動の近況、新着のデータバンクなど最新情報を印刷してお届けします。年4回発行。

研究員 REPORT

今回は、平成10(1998)年度調査研究結果の概要と現在の関心事などについてレポートします。

テーマ1

『公会計改革-豊中市への導入試論』

このことについて、調査研究に取り組んだ「公会計研究会」での検討経過の概要をお知らせして、報告に代えます。

◆豊中市の行政改革の現状

・豊中市には、約6,000弱の事務事業がある。市民向けに実施している事業は約2,000事業でその6割(約1,200事業)が10年以上継続している。

◆豊中市の財政状況の概要・展望

・「歳出」は、7・8年度は震災関連で、9年度は新病院開設関連で増加した。
・「市税収入」は、6年度から特別減税の影響で減少(約50億円)。さらに、震災関連の減免も関係している。9年度は震災減免、特別減税廃止、税制改正(府税→市税)で増加。
・豊中市財政のネックは、「歳出」の伸びに対して「市税収入」が追いつかないこと(「歳入に占める市税収入」は、全国平均でだいたい30%程度、豊中の場合は50~60%)。

◆自治体会計制度に発生主義会計を採ることの意義

・公会計を発生主義会計にすると、恣意的な操作性が縮減する。例えば、「継続性の原則」を採ると、債務償還のための繰入金を停止できなくなるし、出納閉鎖期間はなくなる。
・「決算」重視、成果重視の予算制度への転換が要請される。

◆制定法主義国ドイツからの教訓

・3年ほど前に「地方自治共同機構」(KSGt)が画期的な完全発生主義に基づく会計システムを発表し、地方自治体レベルで漸く改革への動きが本格的に広がり出している。
・日本の場合、地方交付税制度・補助金制度

を始めとして、弱小団体優遇の弊害が目立つ。交付税依存の不健全自治体が、計算上の経常収支比率では非常に健全となる。この点が並行して検討されないと折角の会計制度改革も受け入れられないことになりかねない。

◆デファクトスタンダードとしてのNPM(ニュー・パブリック・マネジメント)

・NPMの大前提は、行政も「サービス提供機関」なのだという点にある。絶えず競争者が存在し、マーケットがあるということで、市民を「顧客」と捉え、成果(顧客満足度)を重視することになる。

企業会計的手法による豊中市の財務分析(中間的報告)

豊中市の一般的な貸借対照表の特徴を平均的なB/S(9市平均)と比較すると、①財政規模に比して保有する資産が小さい②標準的B/Sを持つ自治体と同程度の負債があるという特徴がある。

負債の負担状況は、平均的。貸借対照表の外の債務負担行為予定額まで加味すると、将来的な財政負担度は、9市比較で2番目か3番目に位置する。地方債残高を年度の歳入規模から見ると、かなり抑制している方ではあるが、債務負担行為まで加味するとかなり大きくなる。

【コメント】豊中のような成熟都市では、かなりの維持管理コストをかけて住民サービスをしているわけだが、その運営コストが適切なものかという観点、受益と負担が適切かどうか、というようなことが次の段階での論点となる。(室木)

テーマ2

『地域コミュニティ組織に関する基礎調査』

■問題意識・背景

社会を支える基礎的な単位として、地域コミュニティへの期待が高まっている。ところが、それに対しては漠然とした期待感があるだけで、活動の具体的かつ主体的な実像はこれまで十分に把握されてこなかった。

この調査では、市民活動の必要性や関心の高さを踏まえつつ、地域コミュニティを支える“組織”に注目し、組織運営、活動内容、地域コミュニティとの関わり・連携の様子など、その実態と今後の行政課題について検討した。

■研究体制

- ・研究会：研究委員 井上真理子氏（大阪女子大学）
研究委員 中川幾郎氏（帝塚山大学）
上田しのぶ氏（株エー・エー・ピー）
- ・協力：豊中市、豊中市社会福祉協議会、
とよなか国際交流協会、市民団体代表者

■豊中市民の社会的活動への関心 —その現状—

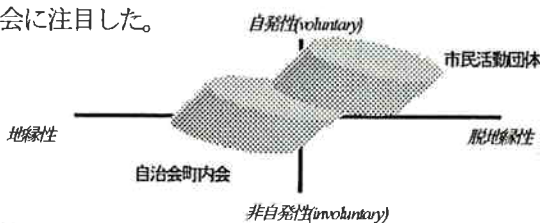
本市の市民意識調査によると、2割を越える市民が過去、現在において何らかの形でボランティア活動に関わりを持ち、将来的に機会があれば活動をしたいとする市民は6割近くにのぼる。活動の場としては、自治会・婦人団体などの既成の地縁組織よりも、福祉、環境、国際など、テーマの鮮明な活動に対し高い関心がある。

■市民組織の多様性

調査の前段階（昨年9月）では、関係機関の協力をえて、延べ1,600件余りの市民組織を把握することができた。一口に市民組織といっても、法律・制度による行政目的なものから個人の意志で集まっている草の根的なものまで、その成立要件や目的によっていくつかの分類が可能である。さらに、行政の事務事業からみると、直接・間接に日常業務と関わりのある市民組織も多いことがわかった。

■実態調査

今回は、多様な組織原理を確認しつつ「自発性と非自発性」、「地縁性と脱地縁性」の分類軸を設定し、そのモデルケースとして市民活動団体、自治会町内会に注目した。



その結果、一般的には次のような姿が見えてきた。

【市民活動団体】

高年、女性、作業多様、課題鮮明、拠点・資金不安定

【自治会町内会】

高齢化、男性、作業明確、課題分立、拠点・資金安定

(報告書P85参照)

○アンケート…98.10月実施
・市民活動団体 (送付569団体 有効回答244 回収率42.8%)
・自治会町内会 (送付100団体 有効回答70 回収率70.0%)
○ヒアリング…98.7～8月実施
6グループの市民活動団体代表者へのインタビュー

○分析にあたって

市民活動団体調査では、「社会参加型組織」「活動志向別(分野)」に分類し、活動動態の異なりを確認するとともに、自治会町内会調査では、過去のデータと比較しながら、現在の動向を明らかにしている。

○市民組織の連携の可能性

- ・地域の将来課題は、「高齢者福祉」「安全」など暮らしや生活環境に身近なものに関心が高い。(自治会調査)
- ・課題に対し、現在、4割の組織が他の組織と連携して取り組んでいるものの、期待値としては7割が連携すべきであると回答している。(自治会調査)
- ・現在のところ連携の相手方は、「自治会・町内会」→他の地縁型組織間、「市民活動団体」→公共施設に集まる組織間が中心という構図になっている。ただし、市民活動団体のうち社会参加型組織は、他の組織との連携度が高くなっている。(市民団体調査)
- ・地域コミュニティでこの期待値のギャップを埋めるために、このような市民組織が連携のパートナーとして浮上する局面は、増えるものと考えられる。

■まとめ

- ・地域コミュニティで市民活動のすそ野を広げるためには、行政ジャンルにとらわれず、組織間連携のチャンネルづくりなどが求められる。
- ・研究会では、組織の現状や課題をふまえつつ、
 1. 市民活動支援の制度づくり
 2. 新しい地域コミュニティの創出
 3. 既存施策・資源の活用による活動環境づくりを基本方向に、いくつかのメニューを例示した。
- ・個々のメニューには、すでに行政等で取り組みや検討がなされているものもある。その一方で、活動に必要な様々な情報は、行政の縦方向で流れることが多く、実際の活動者や地域レベルで、一元・一覧化されていないという問題がある。
- ・行政サポートの検討・実施は、行政と市民組織の関係を問い直す作業でもある。したがって、既存の行政業務に照射される課題も多く、これまでのサポート事業(補助金等)に対する評価やアカウンタビリティの視点が欠かせない。(本荘)

テーマ3

『住宅更新と居住者変動に関する調査研究(1)』 —豊中都市圏ゾーン地域を対象に—

1. 問題意識と研究の目的

既に住宅市街地として成熟期に入った豊中市における今後の課題は、住宅や上下水道・道路などの社会資本のメンテナンスと有効活用と考えられます。とりわけ高齢化社会における「住まい」という観点から見ると、既存の住宅ストックを活用しつつ、高齢化に対応した建替え、リフォーム、住替えなど安定した生活を確保するための支援策や、新たに豊中へ住宅を求める若壮年層を受け入れる環境を整えることなどがまず挙げられます。

こうした政策立案には、住宅供給量の把握等マクロな視点に加え、供給された住宅にどのような世帯が居住し、また住替えているかといった、住民一人一人の生活に着目するミクロな視点、その双方から現状のメカニズムを把握することが必要と考えられます。

この調査研究は、市街地更新過程における住民の移動、家族の変容の実態把握を通して、その居住変動メカニズムを探ることにより、今後のまちづくりへの政策検討材料の提示を目的としています。

2. 調査研究の方法

平成10年度(1998年度)は都心ゾーン地域を対象とし、都心ゾーン内の地域特性を考慮しながら選んだモデル地区の過去30年間について、住宅・表札・居住世帯の変化について調べました。

研究委員として森本信明氏(近畿大学理工学部建築学科教授)、平山洋介氏(神戸大学発達科学部助教授)、伊東康子氏(京都保健衛生専門学校講師)の方々から助言指導を、また豊中市役所から政策推進部企画調整室、建築部住宅対策課(当時)の協力を仰ぎました。

3. 調査結果の概要

(1)住宅の更新と住宅市街地環境の変化について

- 住宅戸数は30年間で倍増している。この増加分は、ほとんど集合住宅の建設と一致する。その集合住宅の大部分は中規模(注)であることから、住宅戸数の増加は、中規模集合住宅の建設が主流であったと言える。
- 市街地環境という点から、敷地分割よりも狭小敷地が統合されていく方向が強く、分割された敷地も最低敷地規模の指導が守られており、一定の水準は確保されている。
- 30年間に半数程度の住宅で建替えあるいは増改築されている一方、建替えの条件を満たさない敷地で

はそのままといい、二極分化の方向が見られた。これ、先に建築行為がなされた周囲の土地利用により、建替えの選択余地が更に限定される可能性を示す。

(注)占有面積70㎡未満でかつ目視によりワンルームマンションまたはそれに類すると推測されるものを除外したもの

(2)居住者の変動について

- 敷地規模の大きい戸建て持家(敷地面積150㎡以上)では、同居、2世帯居住がよく見られる。
- 中規模(敷地面積80~150㎡)の戸建て持家では、同居・2世帯居住という選択はほとんど見られず、子世代の独立後、高齢者となった親世代が夫婦2人または独居をしているという状況が見られる。
- 新たに住居を求める層の受け皿として、戸建て住宅への入居も一定の役割を果たしているが、最も大きい流れは集合住宅である。
- 中規模以上の集合住宅への入居者の半数以上は近隣の地域からの住替えである。一方、マンションからの住替え先は近隣地域・市内・他市へと分かれる。

4. 成果(自己評価)と反省点

今回の調査研究で住宅供給の流れと居住者の変化、住替えの様子を結びつけて調べることで、従来見えなかったその動きの実態がかなり立体的に把握できた。

具体的には、①自力で建替え、更新することの困難な敷地が確認された。また、②集合住宅の機能としてこの地域のかつての人口増を支えたと同時に近隣地域や地域外からの住替えの受け皿としての機能が確認された。しかし、こうした集合住宅は中規模のものが大勢を占め、居住者は数年後更に住替えをしている。

一方、③こうした集合住宅からの住替え先として地域内の中規模の戸建て持家が選択されている例はわずかであった。

従って、地域内住替えという点から見れば、地域内の中規模の集合住宅へ住替えた後、次の住まいを求めて地域を離れる大きな流れがある一方、他地域からこの地域の戸建住宅に住替えてくるという、2つの流れが確認された。

報告書には、こうした住宅ストックと居住者の変化の実態把握を踏まえて、現状に即して考えられる政策を例示的にリストアップしています。

今回のデータからこうした実態が読みとれますが、さらに居住者の選択行動、住まいへの需要等による具体的かつ詳細な居住実態・ニーズを把握するには、居住者・不動産業など、需給双方へのヒアリングが必要です。これは11年度に予定しています。

(藤家)

『都市施設とメンテナンス』
—現在の問題意識・関心から—

豊中市には、病院・保育所・老人センターなどの医療・福祉施設、小中学校・公民館・市民会館をはじめとした文化教育施設など、市民サービスを提供する拠点施設が数多くある。これらの施設は、最新の設備を整えた時代の先端をいくものから、建築年数を経て老朽化しているものなど様々である。

以前の職務では、工事の契約事務を担当し、時々、学校などの現場に出かけることがあった。そこで感じたことは、総じて学校の建物は汚れやいたみが目立っていることだ。補修工事費の関係か、あるいは、使う側が丁寧に使っていないのか、いずれにせよメンテナンスがいきとどいていないように思われた。

建物を建てて数年間はまだしも、年数が経つにつれて、実にいろいろなところがいたんでくる。適切な時期に適切な修繕を行うことが、長期的に見て安

価かつ快適に建物を維持していくことにつながると思うのだが、必ずしも現実にはそうならないようだ。

例えば、最近の民間の分譲マンションが、長期修繕計画に基づき修繕積立金の額を決定し、将来の出費に備え計画的に資金を積み立てているように、公共施設においても中・長期的視点でメンテナンス費用を考慮に入れた計画の作成とその費用の把握が必要ではなかろうか。将来必要な各公共施設の年度ごとの維持修繕費をあらかじめ把握することで、既定経費として必要な予算を計画的に確保することができるようになるのではないかと思う。市民の財産である公共施設を、大切に維持していく視点が求められているように思う。

(太原)

＼(^o^)／データバンク通信はじめました！＼(^_^)／

豊中市政研究所のデータバンクをご存じですか？

簡単に言えば図書館ってカンジかな。普通の図書館と違うのは、書棚に並んでいる本のほとんどが行政関係の書籍と雑誌であるという点です。残念ながら直木賞作品・芥川賞作品等の文学作品や今話題のグリム童話の真実といった本はございませんが、土・日・祝日を除く毎日営業いたしております。お気軽にお越しください(コーヒーも出ます)。

「実際にどんな本があるねん」という方のために、以前は現在お読みになっている「ニュースレター」に間借りして新着図書のご案内をさせていただいておりましたが、今年度(平成11年度)より「データバンク通信」の方へ引っ越しました。毎月1回10日前後に発行しています。ホームページもご活用くださいね。「データバンク通信」の内容はまだまだ「検討の余地あり」といった状況ですが、現在のところ、

- 新着図書案内
- 新着雑誌案内(目次付)
- 各種報告書案内
- 市政研究所発行物案内

の4柱を中心にまとめています。

編集している人間も「かったい内容やなあ」とつぶやきながら書いています。「こんな記事があったらええのに」というご意見、大歓迎です！なお、今月中には「データバンク蔵書目録」も完成いたしますので、ご覧になって「これは！」という資料がありましたら、お問い合わせくださいね。

それでは皆様のご来所を心よりお待ちしております。(Y)

豊中市政研究所
〒595-8501 豊中市南豊中1-1-1
TEL: 06-6644-1111 FAX: 06-6644-1112
E-MAIL: info@city.toyonaka.lg.jp
URL: http://www.city.toyonaka.lg.jp

豊中市政研究所発行物のご案内

データバンクとは!
豊中市の行政資料、広報資料、市民生活に関する資料を、インターネット上で公開し、市民が簡単に検索・閲覧できるようにしています。
※ 一部の資料は有料となります。

ご利用方法
インターネット上で検索・閲覧していただくことができます。
※ 一部の資料は印刷代がかかります。

参考図書

書名	発行年	冊数
豊中市の歴史	1998	1冊
豊中市の自然	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	1冊
豊中市の交通	1998	1冊
豊中市の防災	1998	1冊
豊中市の健康	1998	1冊
豊中市のスポーツ	1998	1冊
豊中市の観光	1998	1冊
豊中市の国際交流	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の行政資料	1998	1冊
豊中市の広報資料	1998	1冊
豊中市の市民生活	1998	1冊
豊中市の産業	1998	1冊
豊中市の文化	1998	1冊
豊中市の教育	1998	1冊
豊中市の福祉	1998	1冊
豊中市の環境	1998	

新・旧スタッフメッセージ

平成11年4月12日付でスタッフの交代がありました。

太原 (研究員)

4月の人事異動で教育委員会総務課から研究所にやってきました。総務課では経理係で教育予算管理、工事契約などの事務を担当していましたが、日頃、事務をとおしているいろいろな事項に対し、漠然とした問題意識は持つのですが、日常事務に追われ、そのことについて考えたり、調べたり、改善策を模索したり、ということがなかなかできませんでした。

いろいろな行政課題について、じっくり腰を落ち着けて考えてみたい。そう思っていたところ、研究所で市政に関する調査研究をする機会に恵まれ、とても感謝しています。

「あいつには3年間、無駄飯を食わしてしまた！」と言われたいようがんばりたいと思いますので、よろしくお願いします。



室木 (土木部交通対策課)

「ことわる／ことなり」の再発見：研究所の2年を顧みて

西欧モデルの真似文化・あてがいぶちの価値構造の限界がはっきりし、創造(=“個”としての実現)が組織・個人を通じた目標とされてしばらくの時間が経過しました。

折りしも地方分権一括法が国会審議に入りつつある中で、個の確立のためには、「ことわり」や「ことなり」を原義(「ことわり(理)」「ことなり」は「こと」を「わかる」こと)に遡って考えることが意味を持つと考えています。この面で豊中市政研究所の活動を期待しています。

事務局から

☆昨今の新聞を読んでいると、金融機関は軒並み大幅な赤字決算。企業はリストラ、過剰設備の廃棄、完全失業率も4.8%という戦後50数年では最悪の事態になっています。

☆何も企業だけが大変というわけではなく、民間企業の赤字や従業員のリストラにより、地方自治体でも税収の大幅な落ち込みと、起債の増加により財政の非常事態宣言寸前という都市が増えています。豊中市もご多分に漏れず財政赤字寸前といわれています。

☆来年4月から全国一斉に介護保険がスタートしますが、詳細というか全容が未だに見えず、新聞報道によると条件付きで家族介護に金銭給付も可とか。

もう準備にかからないと間に合わないと言うのに、大きく揺れ動いています。実施主体の自治体は人、物、金、情報の総力を結集しないとイケないのに。

☆研究所の予算もギリギリまで絞り込みました。その中でもその生命線である研究活動のうち、中・長期展望にたった研究の検討に入っています。研究所理事懇談会も2回開催しました。その中で、テーマは市民生活に関わる具体的、身近なものにしてはどうか、ゼネラルな問題のアプローチではなく、フォーカスをきっちり結ぶ問題を発見し、その解決を図るという方向で設定すべきだという意見もあります。具体的には「豊中における家族政策への提言」、「市民の生活圏の拡大と行政サービスのあり方」、「千里ニュータウンの抱える問題と今後の方策」などにつ

いてその方法論について議論が交わされました。あとはテーマをどう絞り込みをするかの段階になっています。研究所としては市民本位の研究、しっかり地に着いた研究を目指したいと思います。予算を有効に使うため広報出版事業は手作り、ぬくもりのある物を目指したいと考え、実行しています。

☆統一地方選挙で、豊中市議会議員も定数削減

(▲2人)され38人になりましたが、10人の新議員が誕生しました。5月定例会市議会では、乗光議長、喜多副議長など各種役員も決まりました。是非とも一度研究所へのお越しをお待ちしています。(K)

ディズニーランド制覇!

ユーロの設定などEU統合化に向けた動きが、いよいよ本格化してきました。という訳でもないのですが、昨年終わりに、ディズニーランドパリに行ってきた。コートにマフラー・手袋に加えて携帯カイロの完全装備で、「ディズニーランド制覇だ!」との意気込で向かいました。しかし、まだ冬のはじめと言うのに、パリは大変寒く、小雪が舞い散り、滞在中にとうとう一度も太陽を、見る事ができませんでした。おかげで、パーク内は大変すいており、アトラクションの待ち時間もほとんどなく、ゆっくりと回る事ができました。でも、ミッキー達が、心なしか元気がなさそうでした。次は、太陽いっぱいディズニーランドパリに、もう一度行ってみたいと思います。(M)